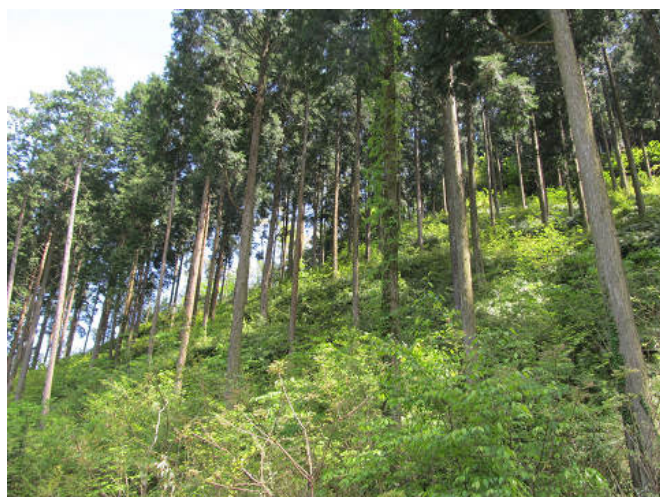


県民全体で “守り育て” 次代へつなげる森づくり

「ひろしまの森づくり事業」取組事例集

～森の力を支え、活かす、12の取組から～

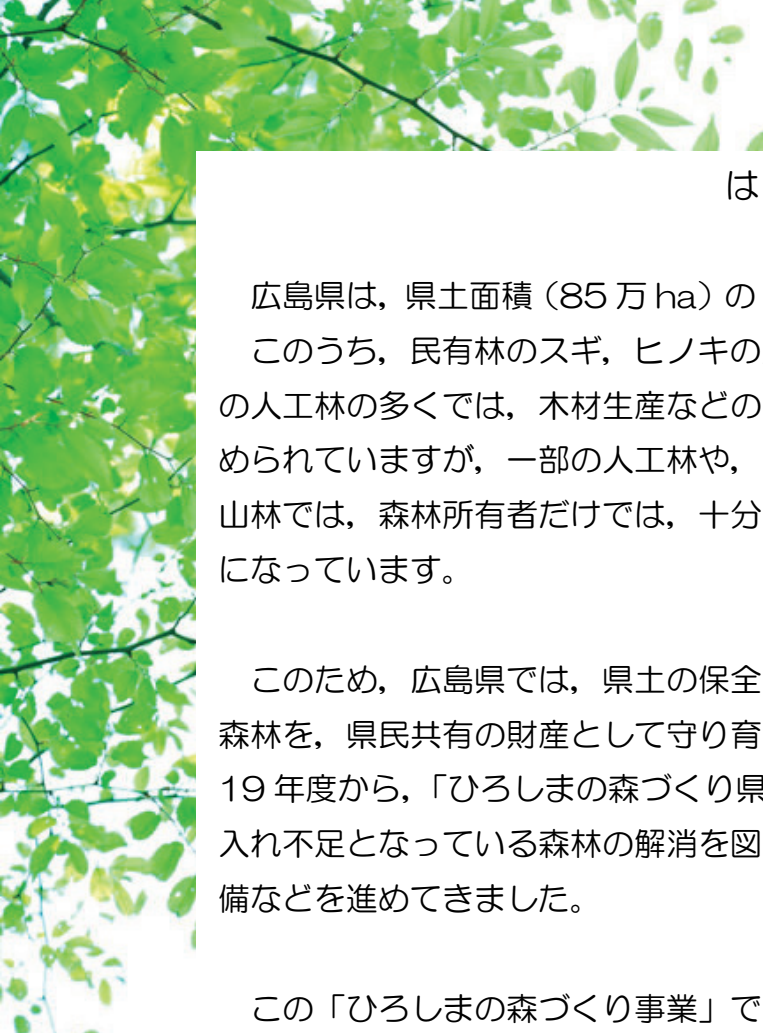


令和元年9月

広島県農林水産局森林保全課



ひろしまの森づくりキャラクター「モーリー」



はじめに

広島県は、県土面積（85万ha）の72%（61万ha）が森林となっています。

このうち、民有林のスギ、ヒノキの人工林が14万haを占めており、これらの人工林の多くでは、木材生産などの林業経営活動を通じて、森林の手入れが進められていますが、一部の人工林や、かつて燃料源などとして利用されていた里山林では、森林所有者だけでは、十分な手入れを行えないところも見られるようになっていきます。

このため、広島県では、県土の保全や水源かん養など公益的役割を担っている森林を、県民共有の財産として守り育て、次の世代に引き継いでいくため、平成19年度から、「ひろしまの森づくり県民税」を導入し、この県民税を財源に、手入れ不足となっている森林の解消を図る取組として、人工林の間伐や里山林の整備などを進めてきました。

この「ひろしまの森づくり事業」では、整備の必要性が高い森林の再生や、森林資源の利用促進、新たな森の守りの手育成等に取り組んで参りました。特に、平成29年度からは、森林の荒廃が進み、県民生活への影響が大きいと想定される箇所を集中的に整備してきたところです。

その結果、これまでの12年間で、約12,000ha、マツダスタジアムに換算して、約5,200個分に相当する手入れ不足の人工林を解消するなどの実績を挙げております。

このように実績を挙げてきた「ひろしまの森づくり事業」ですが、その活動内容についても県民の皆様にご覧いただきたくと取組事例集を作成しました。

この「ひろしまの森づくり事業」取組事例集は、事業内容別に事例を紹介していますので、新たに森づくり活動に取り組まれようとしている方々に活動の内容を理解していただくとともに、それぞれの事例について、工夫したところや活動の成果について記載することにより、現在活動に取り組まれている方々にも参考にさせていただけるように編集しました。

ぜひ御一読いただき、「ひろしまの森づくり県民税」、「ひろしまの森づくり事業」の取組に対して御理解と御協力をいただきますとともに、今後さらに効果ある事業推進のため、御意見、御提案をお寄せいただければ幸いです。

目 次

はじめに

I. 整備の必要性が高い森林の再生

人工林対策 《マツダスタジアム 5,200 個分の公益的機能が回復》	1
里山林対策【景観保全型】 《多数の地域団体が連携した活動によりランドマークとして確立》 ..	2
里山林対策【防災・減災型】 《住民意識の高まりにより災害に強い森づくり活動へ発展》	3
里山林対策【地域資源活用型】 《優れた地域の資源として再認識され保全活動が活性化》	4
里山林対策【地域資源活用型】 《歴史的価値のある地域の資源を地域住民が再生し活用》	5
里山林対策【鳥獣被害防止型】 《地域全体の取組による緩衝地帯の設置でイノシシ被害が減少》 ...	6

II. 新たな森の守り手の育成

特認事業 《森林保全活動に欠かせない安全技術を習得し活動開始》	7
---------------------------------------	---

III. 県民理解の促進

里山保全活用支援事業 《都市部の里山林を地域住民が憩いの場として再生》	8
特認事業 《「ひろしま『山の日』県民の集い」から山に入る機会の拡大》	9
森林・林業体験活動支援事業 《木工を学ぶ学校への支援から児童施設への作品提供》	10
特認事業 《最新のデジタルコンテンツ（VR）で森林・林業を体験》	11
広報事業 《募集した「TEAM森づくり」が森を元気にする活動を実施》	12

（資料編）

◇「ひろしまの森づくり県民税」の概要	13
◇「ひろしまの森づくり事業」の主な事業内容	13
◇平成 19～30 年度「ひろしまの森づくり事業」の実績	14
◇「ひろしまの森づくり事業」のイメージ図	15



人工林対策 環境貢献林整備事業

【事業の内容】

手入れ不足人工林の間伐を進めるため、間伐等に必要な経費を補助する取組

事例

マツダスタジアム5,200個分の公益的機能が回復

【事例の概要】

○事業主体

- ・市町、森林組合などの認定事業主、森林所有者、その他市町の長が認めた者

○H30実施市町

- ・広島市、呉市、竹原市、三原市、尾道市、福山市、府中市、三次市、庄原市、大竹市、東広島市、廿日市市、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、世羅町、神石高原町

○H30実績

- ・間伐面積691ha、補助金額 283,823千円

【工夫のポイント】

○森林所有者の負担軽減

- ・森林所有者の負担金はha当たり1万円

○森林整備後の機能維持の仕組み

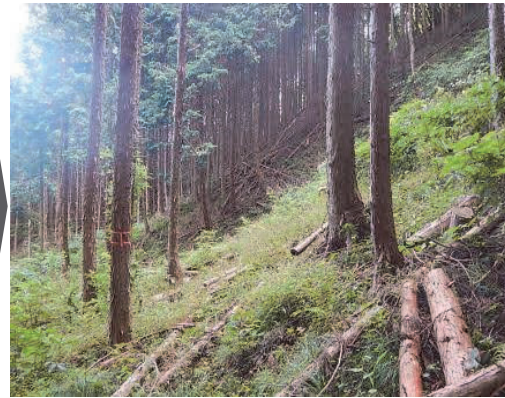
- ・実施後20年間皆伐や転用をしない旨の協定締結

○対象森林条件の絞り込み

- ・15年以上間伐等の森林整備をしていない人工林
- ・10年以上間伐等の森林整備をしていない保安林
- ・分収林契約を結んでいない人工林
- ・山腹傾斜が30度以上かつ保全対象からの距離が250m未満



間伐実施前の林内(庄原市東城町)



間伐実施後3年経過した林内(庄原市東城町)

成果

●H19～H30の12年間で約1万2千ha（マツダスタジアム5,200個相当）の間伐を実施

●市町実績量の順では、庄原市3,258ha、広島市2,257ha、三次市1,084ha



伐採直後の状況(北広島町)



下層植生が回復した間伐施業地(庄原市東城町)



里山林対策【景観保全型】

里山林整備事業 特認事業（地域資源保全活用）

【事業の内容】

景観が悪化している里山林を整備する経費の補助や保全活動を支援する取組

事例

多数の地域団体が連携した活動によりランドマークとして確立

【事例の概要】

- 事業主体
 - ・高見山の森づくり実行委員会
- 実施場所
 - ・尾道市向島町高見山(瀬戸内海国立公園区域)
- 事業実施期間
 - ・H24～H27特認事業(地域資源保全活用)
- 事業経費
 - ・32,238千円(4年間)
 - H24 8,302千円 H25 9,002千円
 - H26 9,932千円 H27 5,002千円

【工夫のポイント】

- 1つの団体でなく、多数の団体が連携
 - ・区長会、公衆衛生推進協議会、社会福祉協議会、消防団、漁業協同組合、シルバークラブ連合会、小中学校、PTA など
- 幅広い参加者に応じた多様な活動メニュー
 - ・下刈り、不用木伐採、チェーンソー講習、自然観察会、記念植樹体験、清掃活動 など
- 将来につなげるための普及啓発
 - ・尾道みなと祭りでのPR、シンポジウム、学習会、ワークショップ、チラシ配布 など



参加者集合写真



地域住民による不用木伐採

成果

- 4年間で約13haの森林が整備され、遊歩道からの眺望が良くなるなど景観が回復した
- 延べ2,455人の地域住民が活動に参加し、地域による森づくりの意識が醸成された
- 事業終了後も実行委員会が継続して森づくり活動を実施し、景観の維持に努めている



整備前の森林の状況



整備後の森林の状況



里山林対策【防災・減災型】

里山林整備事業 特認事業（里山防災林整備）

【事業の内容】

防災・減災を目的とした森林整備経費の補助や保全活動を支援する取組

事例

住民意識の高まりにより災害に強い森づくり活動へ発展

【事例の概要】

- 事業主体
 - ・広島市安佐北区川東町内会ほか15自治会
- 実施場所
 - ・安佐南区, 安佐北区, 安芸区, 佐伯区
- 事業実施期間
 - ・H27～H28特認事業(その他)
 - ・H29～H30特認事業(里山防災林整備)
- 事業費

・H27 15,000千円	・H28 18,000千円
・H29 11,586千円	・H30 15,342千円

【工夫のポイント】

- 町内会単位が事業主体になる仕組み
 - ・防災目的の森林整備は行政が事業主体となることが多いが、本取組では市が示した標準単価を基に自治会自らが委託発注する仕組みとした
 - ・森林所有者の同意取得も自治会が行うことで、地域住民の事業理解度が高くなる
- 森林整備後も地域住民が関わる仕組み
 - ・除間伐や丸太柵の設置に加え、林内に巡視路を整備できるメニューとし、地域住民自らが森林を管理する仕組みとした



林内巡視路の整備



整備後の里山林の状況

成果

- 4年間で約50haの住宅地背後の里山林が整備され、定期的に巡視されている
- 地域の危険地区や森林の機能など地域防災に対する住民の意識が高まった



整備後の里山林の状況



土砂流亡を防ぐための丸太柵の設置



里山林対策【地域資源活用型】

里山林整備事業 特認事業（地域資源保全活用）

【事業の内容】

地域資源の魅力向上を目的とした森林整備の補助や活動を支援する取組

事例

優れた地域の資源として再認識され保全活動が活性化

【事例の概要】

- 事業主体
 - ・地域自治組織「田森自治振興区」
- 実施場所
 - ・庄原市東城町田森地区
- 事業実施期間
 - ・H26～H28特認事業（地域資源保全活用）
- 事業経費
 - ・5,870千円（3年間）
 - H26 2,843千円 H27 2,222千円
 - H28 805千円

【工夫のポイント】

- 地域のシンボルである場所の再生**
 - ・古くから地域住民のランドマークであった「多飯が辻山」の森林を住民の力で再生する取組
- 必要な施設を自らで整備**
 - ・自治振興区の構成員自らの手により、森林整備のほか東屋や駐車場などの施設改修を実施
- 活動の情報発信**
 - ・自治振興区のホームページや定期発行している広報誌「田森自治振興区だより」において、活動状況を情報発信している



田森自治振興区構成員による施設整備



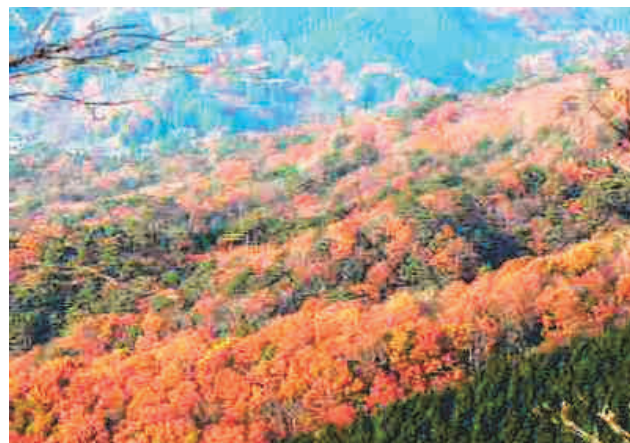
田森自治振興区構成員による計画策定作業

成果

- 3年間での活動回数が200回、参加者延べ846人など地域をあげた取組となった
- この取組以降、同地域の地域保全活動が活性化され、多くの活動の契機となった
- 事業終了後も地元小学生の体験登山などの野外学習の場として次世代につなげている



多飯が辻山 全景



多飯が辻山 紅葉



里山林対策【地域資源活用型】

里山林整備事業 特認事業（地域資源保全活用）

【事業の内容】

地域資源の魅力向上を目的とした森林整備の補助や活動を支援する取組

事例

歴史的価値のある地域の資源を地域住民が再生し活用

【事例の概要】

- 事業主体
 - ・有田城跡森林整備実行委員会
 - ・壬生地区振興協議会
- 実施場所
 - ・有田城跡, 壬生城跡(北広島町千代田町)
- 事業実施期間
 - ・H26～H28特認事業(地域資源保全活用)
- 事業経費
 - ・15,003千円(有田城跡H26～H28)
 - ・7,738千円(壬生城跡H27, H28)

【工夫のポイント】

- 歴史的価値のある資源の再生
 - ・歴史的, 文化的資源である城跡周囲の森林整備と併せて利用向上のための施設整備を実施
- 地域住民の全面協力
 - ・地区振興会や振興協議会の会員が自らの手で東屋改修・歩道補修・ベンチ設置などを実施
- 近隣の2地区で同時に実施
 - ・近隣の2つの城跡の再生事業を同時期に実施することで, 活動が活性化する相乗効果が生まれた



住民団体の植樹会



地域住民によるベンチの設置作業

成果

- 両地域併せて活動回数41回, 参加者延べ847人となり, 地域の力で地域資源が再生できた
- 森林整備による眺望の改善や歩道改修による安全確保により資源の魅力が向上した
- 地域資源に対する住民の意識が高まったことで, 事業後も自主的に継続管理が行われている



改修後の休憩施設



つつじ祭祈願祭



里山林対策【鳥獣被害防止型】 里山林整備事業

【事業の内容】

鳥獣に対して緩衝地帯を設けるための森林整備の経費を補助する取組

事例

地域全体の取組による緩衝地帯の設置でイノシシ被害が減少

【事例の概要】

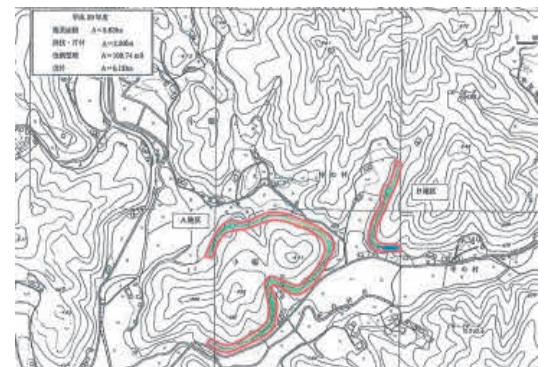
- 事業主体
 - ・府中市
- 実施場所
 - ・府中市上下町国留地区、小堀地区
- 事業実施期間
 - ・H28, H29里山林整備事業(鳥獣被害防止型)
- 事業経費
 - ・9,391千円(2年間)
 - H28 3,883千円
 - H29 5,508千円

【工夫のポイント】

- 地区を限定し2カ年で集中実施**
 - ・府中市では多くの農作物被害が発生している中、農事組合法人が設立されるなど営農活動の盛んな地域で収入確保の必要性の高い箇所を優先
- 地域住民の協力**
 - ・森林所有者の同意は、実地地区の代表者により取得している
- 切れ目のない連続した施行地**
 - ・抜け穴があると効果が薄れるため、農地隣接の森林を連続して囲むように施行した



整備後の農地に隣接した里山林



バッファゾーン整備区域図

成果

- 地域住民からイノシシの出没数が減少したとの声が上がっており、短期間で集中的に実施した事業効果が早速発揮された



緩衝地帯(バッファゾーン)整備前



緩衝地帯(バッファゾーン)整備後



里山活用・保全活動支援事業 特認事業

【事業の内容】

自主的・継続的な森林保全活動を課題解決や人材育成により支援する取組

事例

森林保全活動に欠かせない安全技術を習得し活動開始

【事例の概要】

- 事業主体
 - ・ひろしま森づくり安全技術・技能推進協議会
- 実施場所
 - ・安芸高田市吉田町ほか
- 事業実施期間
 - ・H29, H30特認事業
- 事業経費
 - ・5,654千円(2年間)
 - H29 3,066千円
 - H30 2,588千円

【工夫のポイント】

- 県内全域から受講者を受け入れ
 - ・森づくり安全技術・技能全国推進協議会(FLC)の広島県支部として県内全域か受講者を受け入れ
- 受講者の技量に応じた育成
 - ・安全管理, 選木, 伐採, 集材, 搬出, 目立て, ロープ技術など, 受講者の技量に応じて技術・技能を段階的・体系的に区分した育成方針とした
- 将来につなげる育成
 - ・FLCの資格制度を活用した高度技術者(将来の指導者)の育成を実施



チェーンソーの整備研修



講師による伐採指導

成果

- 2年間で延べ268人が研修会を受講しており, 森林保全活動を行う人材の育成に貢献した
- 参加者の要望を受けて講習内容を拡充した結果, 初心者の受講者が増加した
- 動画や器具などの教材を独自開発し室内講習で活用することで講習の効率化が図れた
- HPやフェイスブックで広く情報発信することで新たなネットワークが生まれた



研修受講者集合写真



安全技術を身に付けた受講者



里山保全活用支援事業

【事業の内容】

森づくり活動に必要な経費（資材購入経費，機器リース）を支援する取組

事例

都市部の里山林を地域住民が憩いの場として再生

【事例の概要】

- 事業主体
 - ・阿品の森サポータークラブ
 - 実施場所
 - ・廿日市市阿品台周辺
 - 事業実施期間
 - ・H29～H30
 - 事業経費
 - ・H29 300千円
 - ・H30 400千円
- ※H28までは森林・林業体験活動支援事業を活用

【工夫のポイント】

- 活動場所が都市部
 - ・住宅団地に隣接した都市部の里山林がフィールドであり，地域住民を森林の中に広く呼び込む活動を実施している
 - ・年20回以上の活動を10年以上継続しており，地域住民に活動が広く認識され親しまれている
- 活動の目的が明確
 - ・住環境に密接に関係する森林を整備するという明確な目的があることから活動に参加する者の理解度が高い



現地発生の竹を活用した柵づくり



林内散策道の補修

成果

- 地域に定着した団体として森林の公益的機能の維持・発揮に貢献
- 地域住民参加型の体験活動を広く開催し次世代の育成に貢献
- 会員の技術レベルが向上しており，他団体が主催する活動の講師役を担っている



団体が設置した遊歩道の防護柵



地域住民が多く参加する薪づくり体験



森林・林業体験活動支援事業 特認事業

【事業の内容】

県民が森林や林業に関心を持つ機会となる活動を支援する取組

事例

「ひろしま『山の日』県民の集い」から山に入る機会の拡大

【事例の概要】

- 事業主体
 - ・各市町ひろしま「山の日」実行委員会
 - 実施場所
 - ・竹原市(R1)ほか16市町
 - 事業実施期間
 - ・H14～R1
 - 事業経費(メイン会場支援)
 - ・毎年3,000千円(特認事業, H19～)
- ※サテライト会場は通常交付金事業により支援

【工夫のポイント】

- 活動日を制定することで定着
 - ・6月第一日曜日をひろしま「山の日」と制定とし毎年の定例行事とした
- 活動範囲を広げる仕組
 - ・各市町が毎年持ち回りでメイン会場となる
 - ・メイン会場は次年度以降サテライト会場として同時開催することとし、活動範囲を広げている
- 多くの企業・団体の後援
 - ・地元企業や関連団体が連携して町おこしの要素を取り入れたイベントとした



大竹市会場



東広島市会場

成果

- 毎年約1万人が参加する森林林業関係では県内最大級のイベントとして定着
- 県内各地で森づくり活動や木と触れ合える機会が拡大している
- 18年間継続している取組であり、目標は全市町開催としている



県産材ブックスタンド作成



丸太切り体験



森林・林業体験活動支援事業

【事業の内容】

県民が森林や林業に関心を持つ機会となる活動を支援する取組

事例

木工を学ぶ学校への支援から児童施設への作品提供

【事例の概要】

- 事業主体
 - ・広島県立府中東高等学校
- 実施場所
 - ・府中市土生町
- 事業実施期間
 - ・H21～H28 県産材利用対策事業
 - ・H29～H30 森林・林業体験活動支援事業
- 事業経費
 - ・毎年500千円～600千円

【工夫のポイント】

- 木工関係の学校への支援**
 - ・県内で建築や家具に関する学科のある高校は数少なく、木工関係の次代を担う生徒たちに県産材に触れ合う機会を設けることで、将来の林業関係の人材育成につなげることができる
- 作品は公共施設に贈呈する**
 - ・生徒は贈呈先を考慮してデザインなどを検討する
 - ・完成作品を市内の保育所、小学校、公共施設などに贈呈する



木製家具製作状況



生徒から園児・児童への贈呈式

成果

- 毎年約80点の木作品を提供しており、ものづくりによる地域貢献は多大である
- 作品を製作した生徒も送られた側にも森林・林業に関心を持つ機会が与えられた
- 児童や園児は木と手作りの温もりを感じ、ものを大切に使うことを学んでいる



贈呈されたテーブル



贈呈されたマガジンラック



森林・林業体験活動支援事業 特認事業

【事業の内容】

県民が森林や林業に関心を持つ機会となる活動を支援する取組

事例

最新のデジタルコンテンツ（VR）で森林・林業を体験

【事例の概要】

- 事業主体
 - ・木育普及委員会
- 実施場所
 - ・ジアウトレット広島（広島市佐伯区）
 - ・広島駅南口地下広場（広島市南区）
- 事業実施期間
 - ・H30特認事業（森林・林業体験活動支援事業）
- 事業経費
 - ・6,994千円

【工夫のポイント】

- 他にない取組
 - ・森林・林業がテーマのVRは全国的に開発されておらず希少価値がある
 - ・「林業機械」「幻想的な夜の森」「道後山頂」の3種類を開発し1人が3度体験できるよう工夫した
- 人が多く集まる場所で開催
 - ・買い物客など来客数の多い商業施設で休日に開催することとした



VRを体験する子どもたち



VRを体験する家族

成果

- 3回（5日間）で約5,900人がVR視聴や木工を通じて森林・林業体験ができた
- 都市部で気軽に森林・林業体験ができるイベントとする目的が達成できた
- 参加者の多くが子どもであり，次世代につなげる木育活動が達成できた



VR体験会場（ジアウトレット広島）



VR体験会場（広島駅南口地下広場）



広報事業

【事業の内容】

事業の理解を促進するとともに、県民参加の森づくりを進める取組

事例

募集した「TEAM森づくり」が森を元気にする活動を実施

【事例の概要】

- 事業主体
 - ・ひろしまの森林づくりフォーラム(事務局:県)
- 活動場所
 - ・広島市安佐北区
- 事業実施期間
 - ・H30
- 委託費
 - ・H30 16,999千円(一部)

【工夫のポイント】

- 活動のきっかけがない方を対象とする仕組みとした
 - ・森林ボランティアに関心はあるものの、きっかけがなく活動できていない方を対象に、ボランティアを募集する仕組みとした
 - ・森林整備を通じて森づくりを体験し、その意義と理解を深め自発的な活動へつなげる仕組みとした



メンバーによる間伐体験



木製階段設置体験

成果

- 「TEAM森づくり」メンバー23人
(男性8人・女性15人, 18歳~67歳)
- 森林整備を通じて森づくりを体験し、その意義と理解を深めることで自発的な活動へつながった



森づくり県民税広報ポスター



活動後のミーティング

【参加者の声】

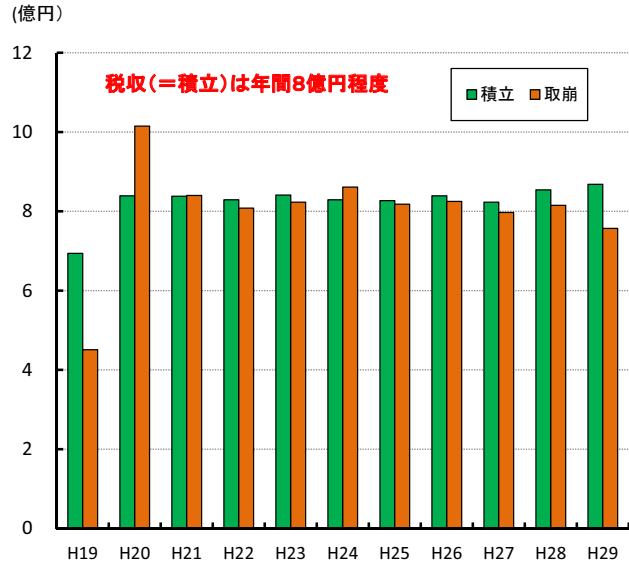
- ・「森づくり」を多くの人に考えてもらえるよう、楽しさや意義を伝えたい。
- ・子どもたちにも、森の楽しさ・素晴らしさを伝えていきたい。
- ・今後も機会を見つけて森づくりボランティアに参加します。

「ひろしまの森づくり県民税」の概要

- 広島県では、平成19年度から、「ひろしまの森づくり県民税条例」により、森林を県民の共有の財産として守り育て、次の世代に引き継いでいくため、「ひろしまの森づくり県民税」を導入。
- 納税額は、個人で年額500円、法人で均等割額の5%。税収額は年間約8億円。用途を明確にするため、「ひろしまの森づくり基金」に積み立て、毎年度、必要額を取り崩して施策に充当。
- 課税期間は、平成28年度末に5年間延長され、令和3年度末まで。

目的	森林の有する公益的機能を持続的に発揮させるため、県民や企業の皆様に広く負担をお願いし、県民共有の財産である森林を県民で守り育てる事業を推進。																		
課税方式	個人県民税及び法人県民税の均等割の超過課税方式																		
納める人	個人	県内に住所がある人等																	
	法人	県内に事務所、事業所、寮などを持っている法人																	
納める額	個人	年額500円																	
	法人	現行の均等割額の5%相当額 <table border="1" style="margin-top: 5px;"> <thead> <tr> <th>資本金等の額</th> <th>税額</th> <th>現行均等割額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>50億円超</td> <td>年額40,000円</td> <td>年額800,000円</td> </tr> <tr> <td>10～50億円</td> <td>年額27,000円</td> <td>年額540,000円</td> </tr> <tr> <td>1～10億円</td> <td>年額6,500円</td> <td>年額130,000円</td> </tr> <tr> <td>1千万～1億円</td> <td>年額2,500円</td> <td>年額50,000円</td> </tr> <tr> <td>1千万円以下</td> <td>年額1,000円</td> <td>年額20,000円</td> </tr> </tbody> </table>	資本金等の額	税額	現行均等割額	50億円超	年額40,000円	年額800,000円	10～50億円	年額27,000円	年額540,000円	1～10億円	年額6,500円	年額130,000円	1千万～1億円	年額2,500円	年額50,000円	1千万円以下	年額1,000円
資本金等の額	税額	現行均等割額																	
50億円超	年額40,000円	年額800,000円																	
10～50億円	年額27,000円	年額540,000円																	
1～10億円	年額6,500円	年額130,000円																	
1千万～1億円	年額2,500円	年額50,000円																	
1千万円以下	年額1,000円	年額20,000円																	
課税期間	平成29年度分～令和3年度分																		

「ひろしまの森づくり県民税」の概要



「ひろしまの森づくり基金」の積立・取崩額

「ひろしまの森づくり事業」の主な事業内容

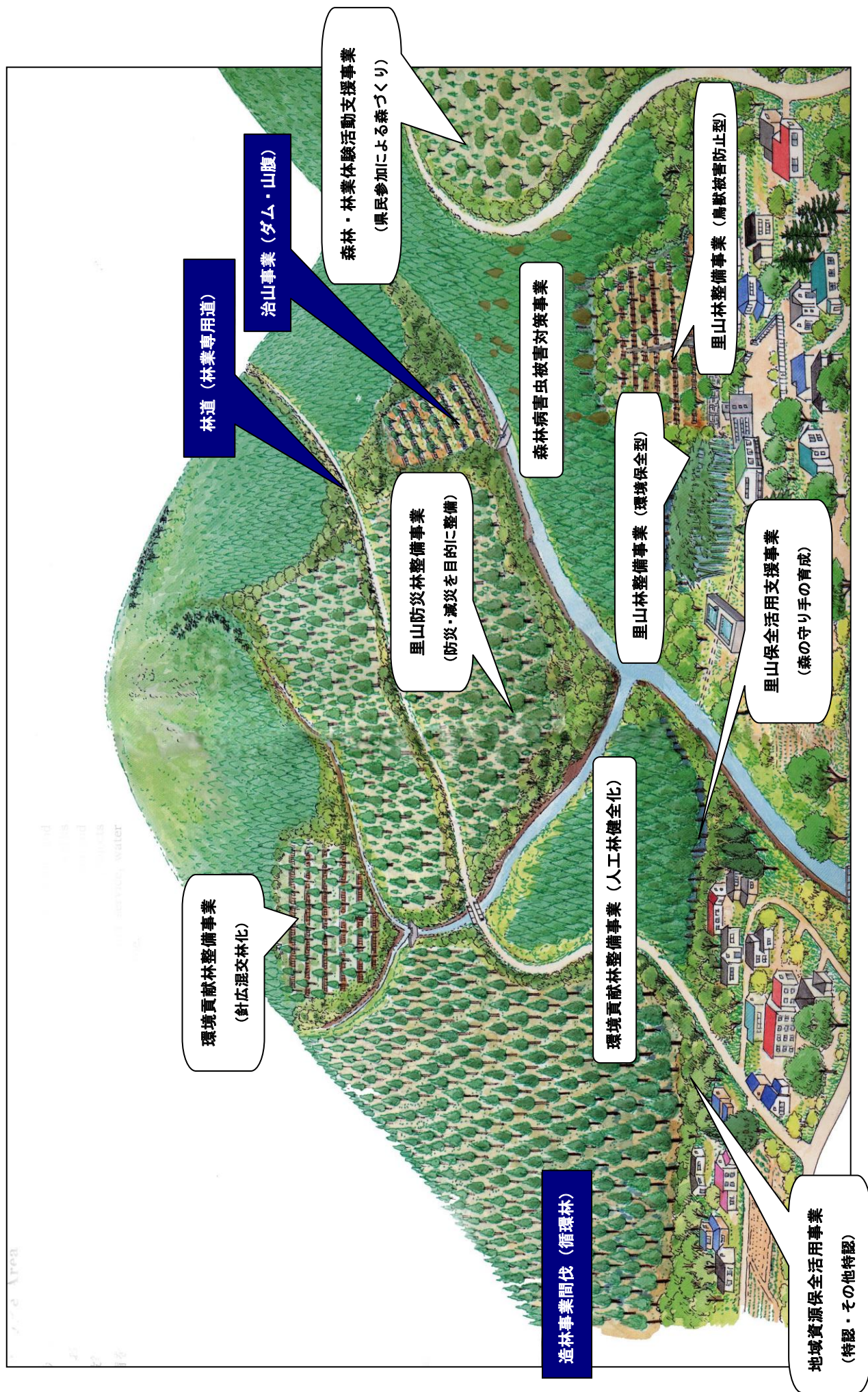
- 県民税を財源として、手入れ不足の人工林と里山林を対象として「ひろしまの森づくり事業」を実施。事業内容は、整備の必要性が高い森林の再生、森林資源の利用促進、新たな森の守り手の育成、県民理解の醸成等。
- 個別の事業は、①県補助金事業、②市町への交付金事業、③県実施により実施。
 - － ①補助金事業では、人工林対策として、林地保全上重要な箇所(※保全対象からの距離250m未満、林地の傾斜30度以上)を対象に、間伐等による集中的な整備を支援。また、「県産材消費拡大支援事業」により、住宅メーカーに対して県産材利用材積に応じ補助。
 - － ②市町への交付金事業では、里山林の整備や新たな森の守り手の育成、森林・林業体験活動など、地域の課題に対応した取組を支援。
 - － ③県実施では、森づくり事業に関する広報を実施。

事業区分	事業名	事業内容	実施方法	令和元年度予算額
県補助金事業	環境貢献林整備事業 等	手入れ不足の人工林を対象に、間伐や針広混交林等を支援	定額 (個人負担1万円/ha)	392百万円
	県産材消費拡大支援事業	標準仕様に県産材を採用した住宅メーカーに対して、県産材の利用材積に応じて補助	定額 (4,500円/m ²)	111百万円
交付金事業	里山林整備事業	手入れ不足の里山林を対象に、地域全体での整備活動を支援	市町に対して交付金を配分	350百万円 (※個人分税収の1割を基本配分額として、残りを森林面積で按分。 基本配分額は、一律200万円/市町+残りを人口で按分)
	里山活用・保全活動支援事業	小規模林業経営者や住民団体等が森林整備を自主的・継続的に行うために必要な取組を支援		
	森林・林業体験活動支援事業 等	森林・林業体験活動や木育活動を支援		
	特認事業	市町を超える広域活動等を支援	市町の要望内容を県が審査して配分	120百万円
県実施	広報事業	税徴収の趣旨や用途の明確化、事業の理解促進のための広報を実施	県実施	20百万円

平成19～30年度「ひろしまの森づくり事業」の実績

主な施策	事業名	事業内容	実績
人工林対策	環境貢献林整備事業	間伐, 被害木処理	12,001ha
		間伐に必要な作業道の開設	23,474m
		間伐に必要な作業道の補修	36,948m
里山林対策	里山林整備事業	荒廃した里山林の整備	3,305ha
県民参加の森づくり	里山保全活用支援事業	住民団体等による森林保全活動への支援	551件
	森林・林業体験活動支援事業	森林・林業に対する理解を深める活動への支援	490件
	里山活用・保全活動支援事業	新たな森の守り手の育成支援 (H29新規設置)	6件
	特認事業 (地域資源保全活用新規)	住民団体等が地域資源森林を保全活用する取組への支援	39件
	住民団体等による保全活動や体験活動に参加した人数		228,645人

「ひろしまの森づくり事業」のイメージ図



環境貢献林整備事業
(針広混交林化)

造林事業間伐 (循環林)

林道 (林業専用道)

治山事業 (ダム・山腹)

森林・林業体験活動支援事業
(県民参加による森づくり)

森林病害虫被害対策事業

里山防災林整備事業
(防災・減災を目的に整備)

環境貢献林整備事業 (人工林健全化)

里山林整備事業 (環境保全型)

里山保全活用支援事業
(森の守り手の育成)

里山林整備事業 (鳥獣被害防止型)

地域資源保全活用事業
(特認・その他特認)

ひとりひとりが、 森づくりの エース。

HIROSHIMA TOYO CARP 14
DAICHI OHSERA
& TEAM森づくり



ひろしまの 森づくり県民税

皆さまからの500円が「ひろしまの森づくり」を支えています。

ひろしまの森づくり県民税		お一人/年間 ひろしまの森づくり県民税	事業の取組み内容・実績 (H24~H29)
納める額	個人	年間 500円	<ul style="list-style-type: none"> 森林機能の維持・管理 …… 67% 県民参加による森づくりの推進 …… 18% 森林資源の活用促進 …… 11% 県民補理解の促進など …… 4%
	法人	年間 5%相当額 <small>均等割額</small>	



ひろしまの森づくりネット 検索してね!

www.moridukuri.net
携帯・スマホから簡単アクセス!



ひろしまの森づくり事業
広島県森林保全課 〒730-8511 広島市中区基町10-52
お問い合わせ: TEL(082)513-3694 FAX(082)223-3583



ひろしまの森づくり
キャラクター
「モーリー」





【問い合わせ先】

広島県 農林水産局 森林保全課 森づくり推進 G

〒730-8511 広島市中区基町 10-52

TEL: (082) 513-3694 FAX: (082) 223-3583

E-mail : noushinrin@pref.hiroshima.lg.jp

◎<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/87/>

◎<http://www.moridukuri.net/> 【ひろしまの森づくりネット】

※事業の申し込みは、各市町の担当窓口へ